

フルハーネス特別教育

8月27日（水）、（一社）日本造園建設業協会千葉県支部と県造園緑化協会共催の「フルハーネス特別教育」が千葉県経営者会館（千葉市中央区）で開催されました（実技は みなと公園で実施）。

開会にあたり佐藤支部長から、「フルハーネスを用いた高所作業の安全確保の向上につながるようしっかり学んでいただき、現場で働く人々の健康と安全確保に務め、作業の効率化を図ることができるよう役立ててほしい」と挨拶がありました。

受講対象者は、フルハーネス型墜落制止用器具を用いた作業を行う方で、日造協会員会社6名、県造協会員会社4名、非会員2名、合計12名が受講しました。

講師は、造園特有の高所作業に特化した内容の講義で定評のある、日造協技術アドバイザーの野村徹郎氏が務めました。

フルハーネス型墜落制止用器具着用義務化から3年経ちましたが通常の講習会では作業場所の上部に安定した支持物があることが前提のもので造園の高所作業の大半を占める高木剪定などの造園の作業環境は想定されていないのが実情です。高所作業車での作業が主流になったとはいえ、樹木に上っての作業は造園業からは切っても切れないものです。

また、日造協主催の街路樹剪定士認定試験でも試験は高木へ登りこみで行われます。今回の講習会では造園の作業環境に適したフルハーネスの形を模索してきた日造協の推奨する造園用フルハーネス型墜落制止用器具を受講者全員が使用して行われました。

講習項目は、法令関係、フルハーネス作業、労働災

害、墜落制止用器具に関する知識などの学科教育4.5時間と、実技教育1.5時間では、造園用フルハーネスの装着の仕方を全員が室内で学んだ後、近くの、みなと公園に徒歩で移動し、実際に3本の樹木を使って実技をおこないました。造園用フルハーネスの特徴はランヤード（ロープ部）とフルハーネス部の接続ポイントが腰の左右と胸の位置にあることで腰の左右と樹木の幹部でU字吊り＝ワークポジショニングがとれること、胸に接続ポイントがあることで通常の背面よりも取り外しが容易で吊られた場合でも動きやすい姿勢がとれることにあります。通常のフルハーネス講習会では単管パイプを使用して足がついた状態で行ったりしますが、今回は実際に樹木に宙吊りになったりワークポジショニングの姿勢をとってみたいと全員が新鮮な体験ができたのではないかと思います。

「フルハーネスは命を守るための道具です」という野村講師の強い言葉に、受講者は最後まで真剣な態度で取り組んでいました。

（日造協千葉県支部幹事 大久保裕昭）

